






- (3) 関連と発展
- (4) 単元の目標
- (5) 指導計画
- (6) 本時の学習指導
 - a 本時のねらい
 - b 目標行動
 - c 下位目標行動
 - d 指導のねらい
 - e 機器の位置づけ
- (7) 教授・学習過程

省略

段階	時間	学習内容	教授学習過程	教育機器留意点	下位目標
つかむ	⑤	1.前時の復習をすすする。 2.三角形の求積はどのように考えればできるかが学習課題であることを確認する。	はじめ ↓ TP ↓ 問題の提示 ↓ 補 ↓ AN ↓ 確認 ↓ 話し合い	・平行四辺形や台形の求積を考えたときの基本的な考え方は何だったのかを、はっきりさせることにより本時の学習のねらいに目をむけさせる。	① ②

(8) 事前調査と結果

観点	問題	解答例	児童名				正答数	不正答数	備考
			A	B	Q	Q			
面積の概念	次の図形には面積があるだろうか。面積のあるものに○、ないものに×をつけなさい。(7種類)	① 	○	○		○	11	6	図形が閉じられていないかよく判断できているか……いかで
		② 	○	○		○	17	0	
		③ 	○	○		○	15	1	
		④ 	○	○		○	17	0	
		⑤ 	○	○		○	17	0	

VI 反省と今後に残された問題点

1 よくなってきた点

- ① 毎回、研究視点を設定し、授業のねらいやチェック項目を意識して授業に取りこんできたことにより、研究のなかに深まりがみられる。
- ② 単元全体の事前テストやポストテストの実施により、既習事項のつまづきや、未学習事項に対する考

え方の傾向などをは握ることができ、その結果をレデネス調査や指導過程に生かすことが可能になった。〈児童の実態に即した授業〉

- ③ チェックの方法がアナライザーに頼ることなくその内容に応じて、いろいろとくふうされるようになってきている。
 - ④ 授業後の児童の感想カードから、児童の授業への参加のし方や児童の立場からの授業のあり方が見なおされるようになってきている。
 - ⑤ 教師作成のTPや児童作成のTPに、一段とくふうが見られるようになってきた。
- 2 今後、努力していかなければならない点

- ① 実態をとらえた後での指導のあり方にある程度成果は認められるようになったが、まだまだ、児童理解の方法やとらえた後の指導のあり方に問題が残る。
- ② 事前テストを実施しないと授業案が作成できないほどになってきているが、本当に本時の指導に活用されたのかを検討しなければならない。
- ③ 事前テストの内容、方法が知識技能やペーパーテストにかたよっていたので、その内容、方法についてくふうしなければならない。
- ④ 重点下位目標行動の設定により、重点的にチェックしなければならない項目がとらえられるようになったが、両者の関連や重点下位目標行動の洗い出しなどは、もっと研究を重ねていかなければならない。
- ⑤ 感想カードにより、児童の考えがつかめるようになったが、そのカードの活用のし方には問題が残っている。
- ⑥ 授業の改善により、個別指導に力はいってきているが、相互学習(小集団)への手だても考えていかなければならない。

VII おわりに

研究の成果として述べるには、時期尚早であるが、本校の研究集録(第1集~第7集)をふりかえりながらまとめてみました。

授業の質の改善をとおして研究主題にせまるための努力をしていることは確かなのだが「その成果は」となると、まだまだ積み上げのたりなさを痛感せざるを得ない。

つたない報告ではあるが、諸先生方の御指導をいただき、更に研究を深めていきたいと考える。